

学期の学級経営の評価、まとめ ～学級目標の達成度の評価と次学期への備え～

埼玉県教育局東部教育事務所

学級担任は、学期末に差し掛かると、年度当初に作成した学級経営案に則り、その学期ごとの自身の学級経営の反省・評価を行います。学級経営の反省・評価においては、児童生徒、学級の実態に即した学級目標、学級経営の方針等が設定され、学級担任の学級づくりの願いを実現するための学級組織を編成した上で、学習指導、生徒指導、教室の環境整備などについての方策が具体的に打ち出されていることが必要です。確かな学級経営案があってこそ、着実な実践ができ、反省と評価が可能となる訳です。ここでは、学期末に行うべき教師自身の学級経営に関する反省・評価と児童生徒の学級生活に関する反省・評価、そして次学期に向けての備えについて考えていくことにしましょう。



1 教師自身の学級経営の評価

学級経営の評価では、基本的には日常の教育活動を推進する中で、常に評価し改善策を立てる姿勢が大切です。そのためには、学級の教育活動に関する月ごとの計画や予定表、週ごとの指導計画（週案）等による日常的な評価の活用を図るようにしましょう。学期末には、それらをまとめ、年度当初に作成した「学級経営案」や「道徳教育の学級における指導計画」等に示した重点努力事項の具体策について反省・評価を行います。

(1) 学級経営案に基づく反省・評価

年度当初の4～5月に、学級担任として1年間の学級経営をどのように進めていくのかを具体的に記した学級経営案を作成しました。その後、ここまで、学級担任は自身の作成した学級経営案に基づき、教育活動を展開してきたはずで、学期末には、当該学期に行ってきた自身の学級経営の実践を振り返り、評価・修正・改善を行います。

一年間の学級経営のサイクル（計画→実践→評価→修正・改善）を示すと、おおよそ上記の①～⑩のような流れになります。各学期末の評価においては、それまでの実践の評価をまとめ、学級経営案に修正を施し、改善策を立てて次の学期の教育活動に生かしていくようにします。

学級経営のサイクル（3学期制）の例

- | | | |
|-----|---|----------------|
| 4月 | ① | 学校・学年の経営方針 |
| | ② | 学級経営の構想 |
| | ③ | 学級の実態把握 |
| 5月 | ④ | 学級経営案の作成 |
| | ⑤ | 第1学期の学級経営の実践 |
| 7月 | ⑥ | 学級経営の評価・修正・改善策 |
| 9月 | ⑦ | 第2学期の学級経営の実践 |
| 12月 | ⑧ | 学級経営の評価・修正・改善策 |
| 1月 | ⑨ | 第3学期の学級経営の実践 |
| 3月 | ⑩ | 学級経営の評価・修正・改善策 |

【教職員人事評価制度との関連】

学級経営案に定めた評価項目により、学級経営を自己評価するのは重要なことであり、教職員人事評価制度はその機会の一つです。

本制度の目的は、教職員の資質・能力の向上を図り、学校全体を活性化させ、教育力を高めることにあります。このことから、組織の一員として学校全体や学年・校務分掌などの目標と連鎖させて個人の目標を設定し、自己評価を活用して、取組を充実させていくことが大切です。

実際に学校で使用されている学級経営案の様式例での評価を見てみましょう。

【A 小学校の例】

平成〇〇年度 第〇学年〇組 学級経営案				
担任 教諭 〇〇 〇〇				
1 目標				
学校教育目標	思いやりのある子	夢をもってがんばる子	真剣に学ぶ子	
学年目標	豊かな心で人につくせる子	がんばりのきくたくましい子	よく考え進んで学ぶ子	
学級目標	友だちを大切に作る子	一生けんめいに取り組む子	考えを進んで発表する子	
2 在籍数				
児童数	男子	女子	計	備考(転出入等)
第1学期	〇〇	〇〇	〇〇	
第2学期				
第3学期				
3 学級の実態、保護者の願い				
<ul style="list-style-type: none"> 〇明るく活動的な児童が多い一方、控えめでじっくり取り組む児童もいる。 〇毎朝、積極的に運動に取り組んでいる。給食の残食が多い。運動や食を通して、たくましい心と健康な体を育てほしい。 〇自分も友達も尊重し、互いに高め合える学級になってほしい。 〇決まりをしっかりと守り、けじめのつけられる子になってほしい。 〇次学年で学習する内容の基礎基本を確実に身に付けてほしい。 				
4 学級経営・教科指導の目標と方策				
	学級経営		教科指導	
今年度の目標と方策	<p>【目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 〇自分のよさと友達のよさに気付き、思いやり助け合うことのできる学級を目指す。 〇学校行事や体験活動を通して、友達と協力して取り組むことのよさや達成感を味わわせ、互いに高め合うことのできる学級を目指す。 <p>【方策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学級全体やグループで話し合ったり見せ合ったりする時間を全教科等で確保する。 ・友達に対する優しい接し方や言葉遣いをその場で称賛する。教師自らが手本となる。 ・学級活動では、手順を示したり助言をしたりして話し合い活動や係活動を充実させ、児童の自主的な活動へと導く。 ・学校行事や体験活動では活動の意義に気付け、より高い目標と意欲をもたせる。 		<p>【目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 〇学習規律を徹底する。 〇学ぶ楽しさ、わかる喜び、達成感を味わわせ、基礎的、基本的な知識と技能を習得させる。 <p>【方策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習の準備、返事、姿勢、発表の仕方・聞き方について確認し、第1学期中に定着させる。 ・漢字ドリルとノートを活用し、新出漢字を習得させる。計算ドリルを毎回チェックし、児童のつまづきを早期に発見して指導する。 ・学習の遅れがちな児童に対しては、個別指導の時間を確保する。学習の進んでいる児童に対しては、発展的な問題に進ませ、学習意欲を高める。 ・話し合い活動やスピーチへの取組を通じて「話し方」や「聞き方」を向上させ、言語能力の育成を図る。 	
-評価-				
第1学期	4月から学習規律について話して聞かせ、学習の準備から片付けまでは習慣化し徹底できている。発表の仕方については個人差があるので、学級会の話し合いをさらに活性化して発言発表の仕方を体得させていく。			
第2学期				
第3				

【B 中学校の例】

平成〇〇年度 第〇学年〇組 学級経営案			
担任 教諭 〇〇 〇〇			
学校教育目標	<ul style="list-style-type: none"> ◇主体的に学ぶ生徒 ◇思いやりのある生徒 ◇心身ともにたくましい生徒 		
学年目標	<ul style="list-style-type: none"> ◇夢や希望をもち自ら学ぶ生徒 ◇自分や友達を大切にし、共に生活する生徒 ◇運動に親しみ体を鍛える生徒 		
学級目標	<ul style="list-style-type: none"> ◇目標をもった学習ができる ◇互いのよさを認め合い助け合う ◇我慢強く、くじけない 		
学級の実態	在籍数	男子〇〇名	女子〇〇名 合計〇〇名
学級の実態	学習面	<ul style="list-style-type: none"> ・学習に落ちていて取り組む者が多く、総じて意欲的であるが、やや発言・発表に消極的な部分もある。 ・学習に対して関心の高い家庭が多く、大半の生徒は家庭学習が習慣化しているが、学習習慣や学習方法が身に付いていない者もいる。 	
	生活面	<ul style="list-style-type: none"> ・全体的に温厚で素直な性格をもっているが、けじめのある生活に慣れていない者もいる。 ・周囲とのかわり方が苦手で交流に消極的な者が若干名いる。個人的にはよい意味での個性が表出するが、協力体制や集団内の絆といった個々の結びつきが希薄である。 	
学級経営方針	<ul style="list-style-type: none"> ◎担任自身、常に自分を振り返り、反省・自制し、より一層、教師として人格・資質の向上に努める。 〇授業を基本として目標をもった学習を確立し、実践させる。(研修を重ね、授業の改善・工夫を図るとともに個に応じた適切な指導を行う。) 〇人に対する優しさや真心、思いやりの心情を身に付けさせる。(徳育の充実から知育・体育への発展をねらう。) 〇生活全般を通じて生徒と教師ともに歩み、互いの向上に努める。(生徒と教師の学級・学年・画工として、生徒・教師間、生徒相互の理解に基づいた共感的人間関係を築く。) 		
道徳教育	社会的規律を身に付けた思いやりをもった人間に	生徒指導	明るく安心して生活できる学級に
人権教育	差別をしない、許さない態度の育成	進路指導	個々の適性に応じた進路選択
特別活動	出会い、触れ合い、高め合う学級に	教3育への関与目標	【学力】 〇家庭学習ノートを励行し、学習の進め方の指導助言を行い、質の高い家庭学習の習慣化を図る。 【規律ある態度】 〇朝、帰りの会を通じて、あいさつ、言葉遣い、整理整頓、時
評価・反省・感想			
第1学期	第2学期	第3学期(年度末)	
<p>家庭学習ノートにより、大半の生徒は家庭学習が習慣化している。進路希望が明確に打ち出せていない生徒について、保護者との三者面談で具体化する。</p>			

学級経営案に評価欄を設けている例を取り上げました。このように、各学期末には、今学期中に行ってきた学級経営を振り返り、当初に作成した学級経営案の評価項目（教育活動ごとの目標や方策）ごとに進捗状況・途中経過を確認し、学級担任としての分析を行い、成果と課題を浮き彫りにし、学年主任や教務主任、管理職に報告・連絡・相談し、情報を共有して、次の学期の学級経営の重点・努力点を具体化していきます。

(2) 道徳教育の学級における指導計画に基づく評価

年度当初には、学級経営案とともに道徳教育の学級における指導計画を作成しています。学級経営を「心の教育」の視点で捉えたものになりますから、学級経営案と同じ形で評価を行います。



【A 小学校の例】

平成〇〇年度 第〇学年〇組 道徳教育 学級における指導計画 担任 教諭 〇〇 〇〇	
児童の道徳性の実態	<ul style="list-style-type: none"> ・周囲を気遣い、声を掛ける児童がいる一方、相手の気持ちを考えない言葉遣いをする児童も見られる。 ・めあてに向かって前向きに努力しようとする児童が多い。 ・役割を自覚して責任を果たせる児童が多いが、自覚が不足している者もいる。
教師・保護者の願い	<ul style="list-style-type: none"> ・正しい判断のもとにきまりを守り、はじめのある生活を送ってほしい。 ・自分のよさと相手のよさを認め、思いやりの心をもって生活してほしい。
学級における道徳教育の基本方針	<ul style="list-style-type: none"> ・約束やきまりを守り、明るく楽しい学級を創ろうとする態度を育てる。 ・互いによいことを認め合い、思いやりの心で接する心情を育てる。
具体的な計画	好ましい人間関係の構築 <ul style="list-style-type: none"> ・あいさつや返事、正しい言葉遣いを習慣化させる。 ・話し合い活動や係活動を充実させ、協力して活動することのよさを味わわせる。
	基本的な生活習慣 <ul style="list-style-type: none"> ・約束やきまりを守らせ、規律のある生活を送ることができるようにする。 ・朝マラソンに取り組みせ、一日の生活のリズムを整えさせる。
	道徳の時間の指導 <ul style="list-style-type: none"> ・資料提示の方法や発問を工夫し、一人一人の発言を大切にす。 ・自己を見つめ、自分のこととして考える時間を確保する。
	道徳性を育む環境整備 <ul style="list-style-type: none"> ・明るい心で楽しく生活できるような掲示物を工夫する。 ・整理整頓を励行し、整った教室で過ごす快さを感じさせる。
豊かな体験活動	第1学期 入学式、離任式、1年生の手伝い、運動会、交歓給食、読書活動
	第2学期 ふれあい集会、修学旅行、持久走大会、収穫祭
	第3学期 社会科見学、中学校訪問、6年生を送る会、卒業式
	通年 委員会活動、クラブ活動、通学班
他学級・学年との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・委員会活動、クラブ活動、交歓給食を通して、同学年との交流を図る。 ・総合的な学習の時間「〇〇タイム」やふれあい集会を通して異学年との交流を図る。
家庭・地域との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・学級通信、連絡帳、家庭訪問、個人面談を通して、家庭との相互理解を図る。 ・学校行事や学校応援団の活動を通して、地域の方々と連携した教育活動を進める。
評価・反省・改善点	
第1学期	道徳の時間、体験活動の実施は計画通り順調。児童の言葉遣いは改善されつつあるがもう一步。
第2学期	

【B 中学校の例】

平成〇〇年度 第〇学年〇組 道徳教育 学級における指導計画 担任 教諭 〇〇 〇〇				
学校の道徳教育の目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 相手の立場を理解し、尊重する態度の育成 2 勤労を尊び、奉仕の心を育てる指導の充実 3 実生活での習慣・実践化を促す指導の工夫 4 差別や偏見を許さない態度の育成 			
道徳教育重点目標(第〇学年)	○基本的な生活習慣を身に付け、実践し、互いに協力して向上し合える人間関係を構築する。			
学級における道徳教育の基本方針	○人権尊重の精神に基づき、正しい判断力と強健な心身をもって個性豊かな文化の創造と民主的な社会や国家の発展に寄与する道徳性を養う。			
学級経営における道徳教育の視点	項目 道徳的な視点 取組の具体例 評価			
	基本的な生活習慣	○道徳の時間を中心に内面的な自覚を図りつつ、実生活の中で指導する。 ◆あいさつ ◆身だしなみ ◆整理整頓 ◆言葉遣い ◆食 ◆時間	●日常生活の中で生徒個々の道徳性を把握し、道徳の時間でそれらを実践するための内面的な力を付けていく。 ●道徳の時間で人としての生き方についてともに語り合う。	A
	環境の整備	○教室の物的環境を整え、整然とした環境の中で言語環境等の内面的な環境の充実に努める。 ◆掲示物・生花 ◆机・椅子 ◆機能的な配置	●当番活動、係活動、委員会活動を徹底し、生徒の自主的運営で常に美しい環境を保つ。 ●学級活動で環境整備に係る題材を設け、過ごしやすい教室環境づくりを行う。	B
	他学年・学級とのかわり	○異年齢集団での交流から広い視野に立った人間関係を築く。 ◆生徒会活動 ◆学校行事 ◆部活動	●生徒会がかかわる行事や委員会活動その他を通じて、それぞれの集団の一員としての自覚を深め、自主的に活動させる。	B
	家庭・地域との連携	○家庭との連携を密にするとともに、地域との資料・人材を積極的に活用する。 ◆学級懇談 ◆学級通信 ◆家庭訪問	●道徳や学級活動において、保護者や地域の方々の協力を仰ぎ、通信物や資料提供をもって生徒の道徳性を養っていく。 ●家庭において、	B
反省・改善	第1学期 基本的な生活習慣はどの生徒も良好。学級・生徒会での生徒主体の活動の活性化が課題である。 第2学期			

これら、年度当初に作成した経営案や指導計画の内容について振り返り、評価項目ごとに当該学期の成果と課題を明らかにして次の学期に備えましょう。

(3) その他、学級経営の反省・評価の視点

事務的に作成した書類とは別に、一般的に学級担任が学期末の学級経営の反省・評価を行う上で大切にしたい視点を以下に挙げておきますので、自身の学級経営の評価に役立ててください。

① 児童生徒の理解と人間関係

ー正しい児童生徒理解ー

- 児童生徒個々の家族関係・友人関係や配慮すべき事項を把握したか。
- 児童生徒個々の得意なことや自信のあることなど多様な個性を把握したか。

ー児童生徒どうしの人間関係ー

- いじめ、仲間外れ、孤立している児童生徒はいないか。
- 男女間の対立、特定グループ間の反目はないか。
- 特定の児童生徒が集団を仕切って支配していることはないか。

ー教師と児童生徒の人間関係ー

- 教師は、特定の児童生徒をえこひいきしたり、特別に取り立てたりせず、全員に公平・平等に接しているか。
- 児童生徒は、教師が公平・平等に接していると感じているか。
- 悩んだり困ったりしている児童生徒が気軽にいつでも教師に相談しているか。



② 生活習慣の指導

- あいさつや時間を守ること、身だしなみ（服装や持ち物）、言葉遣い、礼儀作法等に乱れはないか。

③ 学級組織

- 学級の組織（係、生活班、計画(学級活動)委員会など）が学級の実態に即しているか。
- 組織の成員には所属意識・目的意識をもっているか。
- 当番活動（日直、給食、清掃など）は平等に運営され、責任をもって活動しているか。

④ 環境整備

- 教室内の机や椅子の乱れがなく、整頓されているか。
- 児童生徒の自主的な活動によって清潔な教室環境が保たれているか。

⑤ 学級の雰囲気

- 時と場、活動に応じて、明るく楽しく協力しながら前向きに考えて行動しようとする雰囲気があるか。

⑥ 他の教師との連携

- 学年の他の教師や教科担当教師と情報を共有し、必要に応じて報告・連絡・相談ができる体制が構築されているか。

⑦ 家庭との連携

- 学級通信や保護者会等によって、児童生徒の様子を具体的に伝えるとともに保護者の要望や願いを収集する方策を講じているか。

⑧ 学級事務

- 帳簿類（出席簿、児童生徒指導要録、通知票(通信簿)、時間割、週案、日案、家庭調査票、健康診断票、通信物、集金関係など）の事務については、期限・期日を厳守し、能率よく処理し、活用できるように整理しているか。

2 児童生徒の学級生活に関する評価

学級経営においては、学級の経営者としての担任教師の評価とともに、学級を学校生活の基盤としている児童生徒の評価が重要な意味をもちます。毎日の生活の中で目標や活動のめあてを意識させ、定期的に反省・評価を行うとよいでしょう。

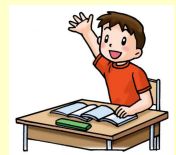
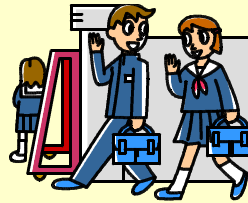
(1) 児童生徒の自己評価、相互評価の活用

児童生徒も担任教師が行う学級経営の参画者です。学級経営の評価においては、児童生徒が日常的に行っている学級活動の自己評価や相互評価を生かすとともに、学期ごとの学級生活に関するアンケート調査を行ったり、学級日誌、生活記録、班の活動記録等を参考にしたりして児童生徒の状況を把握し、課題があれば、その解決に向けた改善策を講じます。

学級生活に関するアンケート調査（例）

1 学級生活のチェック項目

- (1) 学級は明るく楽しい雰囲気がありますか。
- (2) 毎日遅刻せずに登校していますか。
- (3) 朝自習をしっかりと行っていますか。
- (4) チャイムとともに行動することができますか。
- (5) 先生や友達の話真剣に聞く態度ができていますか。
- (6) あいさつがきちんとできていますか。
- (7) 持ち物や宿題を忘れていませんか。
- (8) 意欲的に質問や発表などを行っていますか。
- (9) 給食や清掃などの当番活動は協力して行っていますか。
- (10) 学級の係活動や児童(生徒)会の委員会活動の仕事を積極的に行っていますか。
- (11) 学級(代表・中央)委員や班長はリーダーシップを取って活動していますか。



2 学級生活のチェック項目の中で、解決しなければならない課題は何でしょうか。チェックの結果から、あなたの考えを書いてください。

(2) 児童生徒が行う学期の活動のまとめ

年度初めには1年間の学級目標（児童生徒と担任とで決める学級の集団目標）を設定しました。学級経営は学級目標の達成に向けて行われるものです。この学級目標に照らし、この学期間で学級がどこまで成長しているのかを振り返ることは、担任教師にとっても、児童生徒にとっても大変重要なことです。成長した部分とこれからの課題を明確にすることは、次学期の活動を充実させようとする意欲の向上につながります。学級活動の時間（内容(2)）を活用して、学期の活動のまとめを行いましょ。

第1学期のまとめの例

題材 「第1学期のまとめをしよう」 活動内容(2)

【活動の流れ】

《事前の活動》以下の①

① 第1学期の学級での取組において、常に学級目標を意識して取り組めるようにする

4月 学級目標の設定（学級としての集団目標を決める）

5月 学級組織の編成（目標を達成するための組織をつくる）

6月 目標達成に向けた実践（集団(組織)の一員として、自分の役割、個人として何ができるのかを考え、実践する）

↓
遠足、修学旅行、〇〇集会… ※活動終了時に目標に照らした自己評価を行う。



※自己評価を行った評価用紙に担任がコメントを記入し、活用した資料とともに各自ファイルに綴じ込んでおく。

《本時の活動》以下の②～③

② 学級（集団）としての第1学期のまとめを行う

7月 第1学期のまとめ（目標に照らして実践を評価し、成果と課題を明確にして、第2学期の活動につなげる）

- ◆学級目標に照らし合わせ、学級がどの程度成長しているかを各自が評価し、評価結果の理由も明確にしておく（評価カードを活用）。
- ◆実態に応じて、学級や小グループにおいて自分の評価結果と理由を発表し、今学期の学級のよかった点（成果）と今後改善すべき点（課題）について話し合い、学級全体で共有化する。

③ 個人としての第1学期のまとめを行う

- ◆各自が評価用紙を綴じ込んだファイルを基に、これまでの活動を振り返る。
- ◆自己評価の結果を小グループで発表し合い、相互評価を行う。
- ◆学級の今後の課題とも照らし合わせ、第2学期に努力することを決める。

《事後の活動》以下の④

④ 第2学期の学級での取組において、評価結果を意識して取り組めるようにする

9月 第2学期の努力点の整理（学級目標達成のための第2学期の努力点を決める）

【指導上の留意点】

○学級（集団全体）の評価を行う。

「評価をしましょう」と言うと、とかく個人の自己評価のみで終わってしまいがちです。必ず学級目標と関連する評価活動になるようにします。常に学級目標を意識させ、集団全体のことを考えさせるように仕向けることが大切です。学級目標を意識した活動を行っていないと適切な評価活動につながりません。

○集団から個に返す評価を行う。

「個人として集団にどのように寄与するか」の視点で個人の評価を行うようにします。集団活動を行う中で個人の成長を期待するのが学級活動です。

※右の資料は、本題材の内容を考えた「評価カード」の一例です。

※校種や学年など、児童生徒の発達段階を考えて実施してください。

※第2学期も同様のサイクルで実践し、取組を評価し、まとめを行って第3学期へとつなげていきます（PDCAを意識）。

第1学期を振り返って

第 学年 組 番 氏名 _____

◎当てはまる記号に○印を付けてください（A B C Dの4段階評価）
 A 達成できている B だいたい達成できている
 C あまり達成できていない D ほとんど達成できていない
 —学級全体の評価—
 1 学級目標を一つずつ照らして、学級の様子を評価しましょう。

1 授業に一生懸命取り組む学級	A・B・C・D
【成果】	【課題】
2 みんなで協力して仲良く過ごせる学級	A・B・C・D
【成果】	【課題】
3 思い切り運動に励む学級	A・B・C・D
【成果】	【課題】

—自分自身の評価—
 2 学級目標を意識したあなたの取組を評価しましょう。

活動	取組内容	評価
遠足		A・B・C・D
〇〇集会		A・B・C・D
係活動		A・B・C・D
当番活動		A・B・C・D

3 あなたの活動の成果と課題を挙げてみましょう。

【成果】	【課題】
------	------

4 第2学期の努力点を書きましょう。

--

担任から